

2017 vol.49

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集

「希望」が見えてきた まちへ

2011→2017

東日本大震災から6年の軌跡



村上弘明さん
インタビュー



Special
Interview

演じることは奥深い。見る人に
勇気を届ける女優になりたい

女優

吉岡里帆さん



01 まちの記憶 ⑫ 「旅行者でしかないとしても」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす ⑫

吉岡里帆さん 女優

演じることは奥深い。
見る人に勇気を届ける女優になりたい



07 特集

「希望」が見えてきたまちへ

09 宮城県 石巻市

ここに再び新しいまちとコミュニティーが誕生する

11 塩竈市 共に祝い、喜びながら入居者と地域をつなぐ架け橋に

13 南三陸町 復興パワーを生み出す まちの核となる舞台が完成

15 岩手県 陸前高田市

「夢」が少しずつ動き出し まちに「希望」が見えてきた

17 復興インタビュー 村上弘明さん 俳優

東北は日本の希望の星になる

19 福島県 いわき市

ツツジと共に寄り添い、復興を祈る

21 2011→2017 東日本大震災から6年の軌跡

25 届け！笑顔 ⑦ AKB48 「誰かのために」プロジェクト 東北復興支援

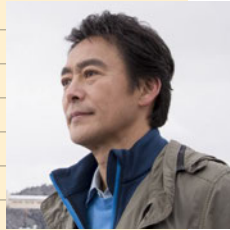
宮城県山元町、岩手県岩泉町、福島県広野町

27 UR都市機構が取り組む復興支援MAP2017

29 UR災害復興支援の取り組み

新潟県糸魚川市、岩手県岩泉町、熊本県宇城市、御船町

31 団地で楽しく防災を考える 町田山崎団地(東京都町田市)



33 URのまちづくり最前線 ①

火災で失われた中心市街地が20年後にもぎわうために
飯塚本町東土地区画整理事業(福岡県飯塚市)



35 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう! その⑩

渡辺通駅・薬院駅周辺(福岡市)

37 ベランダ菜園の楽しみ ⑫ たなかやすこ ミニバプリカ

38 シンプルライフのススメ ④ やまぐちせいこ 「使いやすさ重視」のキッチンへ

男子弁当のススメ! ④ 相田幸二 ウキウキ気分の花畑弁当

39 プレゼント付きクロスワードパズル

40 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.49
2017年4月30日発行

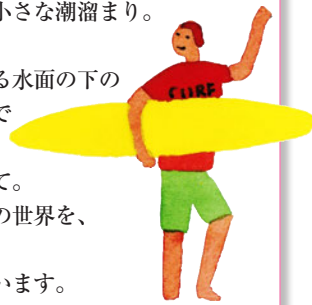
発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社
編集協力 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 凸版印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。

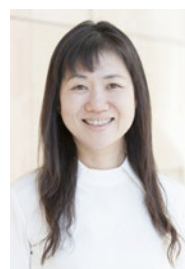
表紙の世界

砂浜の端の小さな潮溜まり。
覗き込むと、
きらきらする水面の下の
守られた家で
小さな命が
育まれていて。
穏やかなその世界を、
時を忘れて
眺めてしまいます。

イラストレーション・小林マキ



が、光景が、「突如」出現したのではないことを、自分の肝に銘じるために。
それでもやっぱり、私は知るべきだったし、知り続けるべきだとも思う。新しい駅舎が、町
広々とした土地が晒され、盛り土がなされ、新しい線路ができて橋ができて
駅舎ができて、バスや電車が走り出すのを、まったくの旅行者の目で見えて
た。地震の後で町と縁ができたことを、私はずっとうしろめたく感じている。
東北の旅で会う人は、そんな私の気持ちを知っているかのようには、「きてく
れてありがとう」「忘れないでいてくれてうれしい」と言ってくれる。お礼
を言うのは私のほうだと、いつも申し訳なく思う。



かくた・みつよ
作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は『なんでわざわざ中年体育』(文藝春秋)。



旅行者でしかないとしても

まちの記憶 ⑫ 角田光代

街灯の少ない

夜道を車で走っていると急に明るくなって、美しい建物があらわれた。新しい女川駅舎である。

この駅舎の前、横断歩道を渡った向こうに、これもまた真新しい町がある。正確には「町」ではなくてシーパルピア女川という商店街で、その先にはハマテラスという市場がある。本当にぴかぴかに新しくしてお洒落で巨大なので、新しい町が突如あらわれたかのように思える。

突如なんてことは、もちろんないのである。この周辺一帯の町も商店街も

ぜんぶ津波に流されて、そこからひとつひとつ積み上げていってここまでできたのだ。二年に一度ほどしか、三陸の町を訪れない私のような旅行者は、その変化にいちいちびつくりしてしまふ。けれどもこの町に暮らす人たちは、その変化の中で暮らし、考え、立ち止まり、進み、積み上げている。以前の町の風景を思い出して、真新しい光景に戸惑う人もいるのだらう。戸惑ったからといって、なくしたものが戻ってくるはずもないから、前を向いて歩くのだらう。
駅舎は、飛び立つウミネコをイメージして作られたという。翌朝、太陽の光の下で駅舎と向き合っていると、なるほど、羽を広げた白い鳥に見える。威厳があるのに、どこかなくかわいらしい。駅舎の待合室には年配の女性が大勢座っておしゃべりしている。駅舎内にある温泉施設、ゆぼつばが開くのを待っているのだという。

ここ女川 をはじめ、三陸の町にはじめてきたのは、二〇一一年の四月である。新聞社の依頼で、地震の被害に遭った町を
実際に歩いて何か書いてほしいと依頼されたのである。なんだか「見学」し
ていくようで、一度は依頼を断り、でも、その地にかないということは、
そのときの私にとっては知らんぷりを決めこむようなことになって、やっぱ
りいかせてくださいと頼んだ。それでもやっぱり気持ちは複雑だった。
それから一年か二年に一度訪れている。崩壊した家々や商店が撤去され、

Special Interview

Riho Yoshioka

「URである。」「のCMに出演している吉岡里帆さん。今、もっとも注目されている若手女優のおひとりです。URのお仕事のこと、伝統文化に育まれた京都時代、そして、これからのお仕事について、率直に語っていただきました。



「演じることは奥深い。見る人に勇気を届ける」

女優になりたい

吉岡里帆

さん 女優

UR賃貸住宅のCMに出演
まちを見る目が変わった

昨年の12月から、「URであるガール」としてUR賃貸住宅のCMに出演しています。本当にたくさんの方に見ていただいているので、その反響の大きさに驚いています。先日ドラマのイベントに行ったときに、私がCMでしているのと同じメガネをかけているお客さまがいらして、びっくり。あのメガネは特注だったので、「どうやって作ったんだろう」とって考えちゃいました(笑)。

実はNHKの連続テレビ小説『あさが来た』の、のぶちゃん役を演じて以来、メガネ姿が定着しすぎるのが怖くて、メガネをかけるお仕事を敬遠していたんです。でも、「1年がんばったし、もういいかな」と解禁したのが

このCMでした。出演のおかげで、たくさんの方に顔を覚えていただけました。ドラマ『カルテット』(TBSテレビ)などクセのある役を演じることが多いのですが、CM効果で「明るくて元気な部分もあるんですね」と言っていただけでも、すごくうれいのです。

CMのきっかけになったのかなと思うのが、1年ほど前からナビゲーターを務めているJ-WAVEの『UR ライフスタイルカレッジ』という番組です。毎回、ゲストを招いて思い出の



まちや気になるまち、生活を向上させていくためのお話などをお聞きます。この番組のおかげで、私も毎日を丁寧にごすようになりまし、もっと素敵な生き方をしたいとか、もっ

とまちのためにいいことをしようと思えるようになりまし

まちを見る目や、歩き方まで変わりましたよ。お年寄りや障がいのある方を考えたバリアフリーや、子どもたちのためのまちづくり、学生に優しい空間づくりなど、まちの特徴を意識して見るようになりました。CMのご縁でURの団地もいろいろ見せていただきましたが、公園があったり、敷地内に木がたくさん植えてあるのいいですね。子どもの頃、近くの団地に公園があるのがすごくうらやましかったことを思い出します。都会であればあるほど、一軒家やマンションは遊び場所に苦労するけれど、団地は守られた場所であるし、同じく歳の子どももいっぱいいて、子どものコミュニティが広がるの

もいいですね。

URは渋谷や大手町などで都市再生事業も手掛けているとお聞きしました。CM出演をきっかけに、まちを暮らしやすく、住み心地よくするために、たくさんの方のプロジェクトが関わっていらっしやることを実感しています。

日本文化が根付く 京都で生まれ育って

生まれ育ったのは京都の太秦うずまさです。映画村が近くにあることもあって、お芝居や演劇など、小さい頃から文化的なものが身近にありました。

両親、祖父母と

もに伝統芸能が好きなので、私も歌舞伎や能に連れていってもらい、日本の芸術文化に触れるのが休日の楽しみでした。

京都は「日本の伝統文化を守りましょう」という意識が生活のなかに根付いているんですよ。



よしおか・りほ
1993年京都府生まれ。
書家を目指して京都の大学に進学するが、演じることの面白さに目覚め、小劇場の舞台に立つ。京都と東京の演劇スクールを往復する日々を経て、2013年より女優としての活動を開始。2015年のNHK朝の連続テレビ小説『あさが来た』のぶちゃん役で一躍注目を集め、テレビ、映画、舞台、CMで活躍中。
特技は書道とアルトサクソフ。趣味は猫と遊ぶこと。

ね。神社仏閣を保存するのももちろん、高校3年のときに一軒家に引っ越したんですが、父から「家を建てるのに、屋根の色や家の高さなどの規制がすごく厳しい」と聞かされて、まちづくりが徹底しているんだなと思

いました。

観光地としての見どころもたくさんありますが、実際に住んでいると、空気の流れみたいなのがすごく魅力的です。実家に帰ると空気の流れがゆっくりと穏やかで、とても落ち着きます。

盆地で山に囲まれているし、自然が多くて空気が清々しい。夏はすごく暑くて、冬はすごく寒いことも、住みにくいように感じるんですけど、裏を返せば、四季をちゃんと感じられるということ。いまま故郷が恋しくて、

だと思いません。先日、大学で師事していた書家の先生と対談する機会がありました。線質とか見た目のバランスなどを考え、美しいものを完成させたときの喜び、鍛錬を重ねて生まれる達成感、そしてそれを誰かに届けられる喜びが大きいのかなと、あらためて感じました。

困難を乗り越える 前向きな役に挑戦したい

女優をめざしたのは、18歳のときに映画のエキストラをしたのがきっかけです。そのときたまたま隣にいた子が映画監督志望で、「一緒に映画を撮ろう」と誘ってくれたんです。やってみたらすごく刺激的で、感銘を受けて、「この仕事をやってみたい」と。もう、直感ですね。それから、時間を忘れるくらいのめりこんで、演劇や映画を見に行くようになり、いまもその毎日は変わりません。

その後、東京の演劇スクールに通うようになったんですけど、めっちゃ大変でした(笑)。大学の授業に出て課題を提出し、ほかの大学の演劇仲間と活動し

てから、深夜までアルバイト。それから夜行バスで東京へ行って、オーディションを受けてレッスンをして帰る。そんな生活を5年ぐらい続けました。

そのおかげで、いままハングリーに頑張れるし、絶対にバテないし、「どんなお仕事でもやります」という気持ちです。オーディションに何度も落ちて、「自分はなんでこんなに何もできないんだろ」と、すごく悔しい思いもしたので、お仕事があることは、私にとっていまもキセキみたいな気持ちです。

少しずつお仕事が増えて、初めて役名で呼んでもらえたのが『あさが来た』です。スタジオを出たときに「のぶちゃん」と声をかけてもらったときは、涙が出るくらいうれしかったです。『カルテット』の来杉有朱

役を演じたときは、悪役だけに、すごく負荷があるというか、やればやるほど自分の体への負担が大きくて、お客さんに見てもらうのも怖かったですね。4月15日公開の映画『名探偵コナンから紅の恋歌』では、初めて声優にも挑戦しました。慣れないこともあって、手が汗でびっしょりになるくらい緊張しました。

クセのある役が多いせいで誤解されがちですが、実際の私はネアカで楽しいことが大好き。お仕事でも、チームでやる感覚が好きで、最近は大勢でひとつのものをつくる醍醐味もわかってきました。

CMでもお芝居でも、制作側が同じところに向かって緻密につくってあげれば、必ずどこかの誰かに突き刺さると思うんですよ。だからこそチームのため

家族とはしょっちゅう連絡をとっていますし、近くで仕事があると必ず立ち寄っています。

京都は古いまちだけあって、ご近所付き合いをとっても大切にしています。町内の情報交換も活発ですし、お互いに言いたいこともちゃんとあります。それも、京都は本音と建前の文化なので、遠回しなんです。

例えば「お宅の木、大きく育たはられましたな」と言われたら、切ってほしいということ(笑)。自分たちが住み心地いいことは大事だけど、ご近所さんとのお互いの配慮がすごく大事なんだな、と学びました。

小さい頃は体が弱くてスポーツがあまりできなかったのですが、友人に誘われて小学生のときに書道を始めました。週に1回、近くのお教室に通うのが楽しみでした。書家になりたくて大学まで入ったんですが、途中で女優のお仕事を始めてしまいました。

まだまだ若輩ものなので、書道の魅力など大きなことは言えませんが、書道には自分の手で作品を生み出せる喜びがあるんじゃないかなと思います。

女優のお仕事って、やればやるほど奥が深く、感情だけでは太刀打ちできない役もある。技術を磨いていかなければと痛感しています。見ていただく方に喜んでいただきたいから、これからもたぶんずっと悩み続けるだろうし、満足することはないのかもしれないね。

今後やりたい役はいっぱいありますが、私と同じように葛藤を持っている人たちが困難にぶち当たったとき、それを乗り越える勇気が届くような、前向きな役をやってみたいですね。そういうエネルギーを演じることによって、私も成長させてもらえるのではないかと期待しています。

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマートフォンから吉岡里帆さんのインタビュー動画がご覧いただけます。(2017年7月末まで)



WEB UR PRESS

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマホからドローンで撮影した石巻の動画をご覧ください。



WEB UR PRESS

東日本大震災から6年。
未曾有の被害を受けた東北のあちこちで復興が目に見える形で結実し始めている。
UR都市機構が取り組んできた復興事業も新たなステージへ。
地元の人々が語り始めた夢や希望、
その声に耳を傾けながら、東北のまちを歩いた。

特集

希望が見えてきたまちへ

岩手県

盛岡市

陸前高田市

南三陸町

石巻市

宮城県

仙台市

塩竈市

福島県

福島市

いわき市

福田正紀=ドローン撮影

宮城県石巻市の新門脇地区では、復興公営住宅の入居が進んでいる。宅地整備もほぼ完了し、3月19日に「まちひらき」を行った。

※肩書きは取材当時のものです。



上/石巻の復興を支えたUR都市機構石巻復興支援事務所のメンバーたち。右端が所長の松原。左/門脇東復興公営住宅。集会所は、町内会によるイベントにも利用されている。



上/「まねきショップ」の前に立つ町内会会長の本間英一さん。

右/1897年造の本間家土蔵。震災後、寄付によって修復された。「まねきショップ」に声をかければ内部を見学できる。



美しく整地された新門脇地区の宅地。奥に見える白いテントが、まちびらき式典の会場。

ここに再び新しいまちとコミュニティが誕生する

宮城県 石巻市

石巻市の南側に広がる新門脇地区では、復興公営住宅がすべて完成し、宅地と道路もほぼ完成を迎えた3月、新たなまちのお披露目が行われた。

安全に暮らせる新しいまちをつくる

「震災前よりにぎわっているまち」
「今以上に店や住宅が建っているまちになってほしい」

3月19日に開かれた石巻市新門脇地区の「かどのわき復興まちびらき」。ステージ上で「どんなまちになってほしいか」と聞かれた中学生の答えに、参加した地元の方々も笑顔でうなずいている。今日は門脇が新たなまちとしてスタートを切る日。式典は元気な石巻日高見太鼓で幕を開けた。

新門脇地区は旧北上川の右岸、石巻湾に開けた平野で、日和山のふもとに広がっている。ここに再び人々が暮らしを営む安全なまち



上/「新しい門脇が今、始まります！」の声とともにテープカット。



左/タイムカプセルの封印式に登場した門脇中学校3年の2人。

れ、感激しています」

コミュニティづくりにはカーシェアの工夫

江戸時代には仙台藩の米を江戸に運ぶ船でにぎわった門脇。寺社の歴史も古く、よそに移ってもお墓はここにある人が多い。

「そんな人たちがお彼岸で墓参りに来るのに合わせて、まちびらきイベントを開き、復興したまちを見てもらいたかったです」

そう話すのは、新たに組織された「かどのわき町内会」会長の本間英一さん。本間さんは昨年末、町内唯一の商店「まねきショップ」を、東街区の復興公営住宅の目の前にオープンさせた。

この店は食料品から生活雑貨、地元の特産品などを並べ、簡単な食事とお茶も楽しめる。同時に店内で震災被害の展示を行い、まちを訪れた人たちへの情報発信も担う。店には頻繁にお客さ



まちびらきの会場でEV車を展示して、「コミュニティ・カーシェアリング」をアピール。



石巻市長 亀山紘さん

安心して暮らせる快適なまちをつくるため、道路や公園が整備され、復興公営住宅も入居が始まりました。町内会も発足し、今後のコミュニティ再生に向けて大いに期待しています。土地は整備され、基盤は整いましたが、本当の復興はこれからです。この土地に戻りたい人、すべての人の再建ができたときが、本当の復興です。その実現に向けて、これからも皆さんとともに努力していきます。

は町内会が5つもあり、それぞれ活動が活発で、コミュニティが濃密な地域だった。「新しく整った門脇に、たくさんの方に戻ってきてほしい。10年後、20年後、住宅や店でいっぱいの子にならばいいと思っています」と本間さんも期待を寄せる。

新しいコミュニティづくりに注目したいのが「コミュニティ・カーシェアリング」。これは石巻市と日本カーシェアリング協会、UR都市機構が協定を結び推進す

るもので、各地区でボランティアで運転する人を含む数人のグループをつくり、車を相互に利用し合うシステムだ。新門脇地区でもすでに十数人が参加するグループができたという。被災地にこのシステムを導入するねらいを、UR都市機構宮城・福島復興支援本部で事業を担当する井ノ上真太郎が説明する。「仮設住宅から公営住宅に移り、知り合いのいない人たちが、カーシェアリングでつながって、コミュニティをつくることができ、車を利用したい人と、運転する人の間で会話が生まれ、じゃあグループで一緒に出かけよう、という話も出るかもしれません。新しい仲間を増やす手助けになればと思っています」新しい門脇にはもう、新しい芽が顔を出していた。

「工事が予定通り進まず、お叱りを受けることもありましたが、皆さんから『ありがとう』と言わな暮らしが始まっている。UR都市機構石巻復興支援事務所所長の松原弘明は、この日のまちびらきでたくさんの方々の声かけられ、ホッとした表情を浮かべていた。

宮城県が整備を進めている石巻湾沿いの高さ7・2メートルの海岸防波堤と、その内側の高さ3・5メートルの高盛土道路、この二重の備えでまちを津波から守る。さらに、日和山への避難階段に至るルートは道路幅を広げ、復興公営住宅の最上階に備蓄倉庫を備えるなど、津波に強いまちがつけられている。

をつくるため、石巻市から事業を委託されたUR都市機構は、高盛土道路や一部市街地を盛土し宅地整備を行うなど、土地区画整理事業を進めてきた。

共に祝い、喜びながら 入居者と地域をつなぐ架け橋に

宮城県 塩竈市

「災害公営住宅の整備に係る基本協定」に加え、「コミュニティ形成と地域の支え合い活動の推進に関する協力協定」も結び、安心して暮らせる環境づくりを共に進めてきたUR都市機構と塩竈市。担当する最後の災害公営住宅が完成し、節目となる日がやってきた。



特別な思いで迎える 錦町東住宅の完成式

3月13日、JR仙石線・西塩釜駅近くの錦町東住宅の駐車場広場で、UR都市機構の職員たちは早朝から会場準備に動き回っていた。

本部長 佐分英治から佐藤市長へ、そして佐藤市長から入居者代表の山田美津代さんへ鍵が手渡された。佐藤市長からは「URさんには建築整備はもちろん、入居後のコミュニティづくりにもご尽力いただきました。URさんの総力が

あったからこそ塩竈の災害公営住宅は完成し、地域の皆さんが安心して暮らせるようになりました。市民を代表してお礼申し上げます」との言葉と共にUR都市機構理事長 中島正弘へ感謝状が手渡された。

入居者の不安を減らす 配慮満載の交流会

交流会を盛り上げるため、佐藤市長(前列左から2人目)をはじめ塩竈市職員やNHK大河ドラマで伊達政宗の少年期を演じた経験のあるUR職員が鎧姿で登場。交流会後には入居予定の皆さんと記念撮影した。



入居者の皆さんの不安を減らすための配慮が随所になされた、とてもアットホームな会だった。「入居者には高齢や単身の方も多く、各地から集まってきました。集合住宅での生活に不安を感じている方も多いため、入居者同士の交流に加えて、近隣の住民の方と交流ができるように企画しました」とUR宮城・福島震災復興支援本部住宅計画チームの松村尚はこの日の会の趣旨を説明する。実際、入居予定の八木京子さんも渋谷律子さんも、仮設ではない新しい住宅に入れるのは感慨無量だけれど、一方で集合住宅での暮らしは不安もあるとのことだったが、この日の交流で不安が和らいだと語っていた。

は入居から2年が過ぎ、生活が落ち着きつつあった。広めの縁側で「お茶っこ」をするのが日々の楽しみと言いつつ、いろいろなお菓子やお惣菜を次々にすすめてくださる。「ここはトイレもお風呂も設備が立派だし、何かあればすぐに対応してくれる。入居者の皆さんは、終の棲家として安堵して暮らしていますよ」と浦戸諸島桂島区の区長 内海 衆蔵さん。5年にわたり担当して

きた松村をはじめ、すっかり地元の人々に溶け込んでいる塩竈担当のUR職員は、桂島の海水浴場整備のための清掃やイベントなどにも参加して地域を盛り立てている。災害公営住宅の整備が無事終了してホッとする反面、さみしさを感じているUR職員たち。塩竈の人たちが希望をもって幸せに暮らしていくことを願いながら、最後は「また顔を見せに帰ってきます！」と笑顔であいさつして、しばしお別れだ。



佐藤昭塩竈市長(右)から感謝状を受け取るUR都市機構理事長 中島正弘(左)。「塩竈ではUR職員が市民の皆さんと交流する機会が多く、高齢者支援やコミュニティ形成支援についていろいろ勉強させていただきました」とUR側からも感謝を伝えた。

浦戸桂島で
終の棲家として
錦町東住宅よりひと足早く完成した浦戸桂島の災害公営住宅を訪ねると、こちらにお住まいの方々



浦戸桂島住宅を訪ねたURメンバーと入居者の皆さんで記念撮影。入居者同士が交流しやすい住宅配置になっている。

「塩竈の人は、こちらが一生懸命やっていたら、評価して受け入れてくれます」とURの松村尚(左)。入居者の皆さんから信頼されている。



錦町東住宅は全70戸。塩竈桜をイメージしたカラーリングで、エントランスホールを集いの場としてしつらえた。



上/UR都市機構が整備した高台の宅地には住宅が建ち始めている。



左/災害公営住宅である志津川東復興住宅。雨にぬれずに回遊できる造りで、中央に芝生広場がある。



全国から注目される南三陸志津川さんさん商店街。3月3日のオープニングセレモニーには関係者や報道陣を含め大勢の人が集まった。オープンを心待ちにしていた地元の人々も次々に訪れ、楽しんでいた。



低地部のかさ上げが進む南三陸町。志津川湾に向かって、南三陸志津川さんさん商店街の建物が並ぶ。

復興パワーを生み出す まちの核となる舞台が完成

宮城県 南三陸町

高台の住宅地の完成、そしてさんさん商店街の移転オープン。この春、南三陸町の復興まちづくりは、新たな幕を開けた。

観光交流拠点に さんさん商店街オープン

3月3日、表い新たに南三陸志津川さんさん商店街がオープンした。仮設時代に200万人が訪れた。仮設時代に知られる商店街の本設オープンとあって、当日は多くの人が訪れた。

地元の南三陸杉をふんだんに使った美しい木造建築の建物には、地元の海の幸を提供する鮮魚店や飲食店をはじめ、洋品店や菓子店など28店舗が入居。次々にやって来るお客さんから「オープンおめでとう！」「買い物やお茶を飲みに来る場所ができてうれしいわ」と声をかけられ、緊張気味だった商店主の顔がほころんでいる。



商店街会長の阿部忠彦さんが営む阿部茶舗のイトインスペースは、あえて杉の梁や柱を見せる造りにした。

「避難所から仮設住宅、本設へと引越しが続き、いまだ落ち着かない人が多い状況です。震災でコミュニティが崩壊してしまっているのが、商店街がお客さまの交流の場になればと思っています」と話すのは、自身の新店舗「阿部茶舗」に

向性が見えてきたので、これから重要なのはソフト面です」と語るのは、商店街の完成を感慨深く見守る南三陸の佐藤仁町長。交流人口を増やして、まちを活性化させることが課題であり、今後



震災の日、防災対策庁舎の上でまちの様子を見ていたという南三陸の佐藤仁町長。復興にける思いは強い。

も多くの人に南三陸へ足を運んで応援してもらいたいと呼びかける。そして、商店街を含め南三陸の復興市街地のランドデザインを担当している建築家の隈研吾さんは、商店街を生活の舞台として活用してほしいと話す。「商店街は

地域の核であり、南三陸の人たちの情熱が集結した場。復興の元氣をつくる舞台」だと言う。

2018年度の 市街地整備完了に向けて

「整備した地に住宅が再建されていくのを見るのもうれしいですが、お客さままでにぎわう商店街を見て、また違った喜びがありました」と言う。市街地整備エリアに目を向けるのは、UR都市機構南三陸復興支援事務所の南木宏和だ。南三陸町は市街地整備の規模が大きいので、国道、河川、防潮堤などの復興復旧事業との調整も多岐にわたり、一筋縄ではいかない。それでも南木をはじめUR

イトインスペースを設けた、商店街の阿部忠彦会長だ。

佐藤仁町長が目指す 活気あふれるまちづくり

東日本大震災で町内の6割以上の建物が流された南三陸町は、「なりの場所がさまざまであったりも、住宅は高台に」という方針でまちづくりを進めている。それを実現すべく、志津川地区の市街地整備と災害公営住宅整備を担当し、支援してきたのはUR都市機構だ。山を切り開いて造成した高台の3つの団地は2016（平成28）年度で引き渡し完了。災害公営住宅は入居が進み、宅地には住宅が建ち始めている。

一方、交流施設や商業施設などを配置し、安全・安心かつにぎわいのあるコンパクトなまちづくりを目指す低地部は、高台造成で出た土を利用し、約10メートルのかさ上げが急ピッチで進められている。南三陸志津川さんさん商店街がつけられたのは、にぎわいを生み出す観光交流拠点として、先行整備したかさ上げエリアだ。「URさんをはじめ皆さんのおかげで、まちづくりのハード面は方



毎朝、石巻から車を50km走らせて、南三陸へ通っているUR都市機構南三陸復興支援事務所の南木宏和。「山を越えて志津川に出ると、景色や雰囲気が一気に明るくなります。低地部も早く土地をお渡しして、にぎわいの広がりをもてるようにしたいです」

職員は、計画を前倒しする意気込みで知恵をしぼり、まちの人や工事関係者と力を合わせ、2018年度の整備完了に向けて仕事を進めている。商店街の新たな門出を喜び合いますが、「これからが本番だ！」という緊張感を抱く関係者たち。南三陸の復興まちづくりは、新たなステージを迎えている。

東北は日本の宝。 世界中から人が訪れるまちに!

東京大学教授・建築家 隈研吾さん

南三陸志津川さんさん商店街のデザインで大事にしたのは、南三陸らしさです。仮設のときの商店街の楽しい雰囲気の本設でも活かすことを心がけました。

建築の見どころは、①海を近くに感じられるデザイン、②日本ならではの内外をつなぐ縁側を設けたこと、③南三陸杉をたくさん使ったことです。縁側にはベンチを置いたり、看板をつけたり、どんどん手を加えて使っていただきたいですね。

地形が複雑で、それぞれ独特の文化がある東北は、日本の宝。東北の力がこれからの日本を支えると僕は思っています。だからこそ、南三陸を世界中から観光客や視察の人が集まるような、輝くまちにしたい。これからも全力で応援していきます。



市役所の仮庁舎の前で、戸羽市長(左)、UR都市機構陸前高田復興支援事務所の草場優昭(右)とともに。市役所から出てきた女性に「あれえ、ヒロアキちゃんでないの!」と声をかけられる一幕も。地元で知らぬ人はいない村上さんなのであった。

「あれは何ですか?」と村上さんが指さす先には、山の斜面に巨大なコンクリートの構造物が口をあけて並んでいる。ベルトコンベヤーへの土砂投入口との説明にうなづく村上さん。3キロもの長さのベルトコンベヤーは、2014(平成26)年3月からかさ上げに必要な膨大な土を運び、15年9月にその役目を終えた。ベルトコンベヤーの利用で、かさ上げに要する期間を約6年も短縮したという。

仮庁舎前では、復興を率いる戸羽市長にお会いした。「まだ多くの方が仮設住まいですが、かさ上げも高台造成も進み、復興が目に見える形になってきて、皆さんに笑顔が増えました。希望をもっていただけのように思ってきたと感じますね。多くの支援をいただき、オール陸前高田で頑張つて、ここまで来ることができました」

夢と魅力のあるまちへ希望が見えてきた

なかでも市民の希望の力になっているのが、4月末オープンを目指して中心市街地に建設されている大型商業施設だ。名前は公募で「アバッセたかた」と付けられた。「『アバッセ』は土地の言葉で『さあ、行こう』という意味。いい名前ですね」

と村上さん。

完成を控えたアバッセたかたの前で、陸前高田商工会の会長、伊東孝さんにもお話を聞いた。商業施設の周辺には広場などを設け、併設の市立図書館も6月末にはオープン予定。金融機関などの施設もでき、年内中には周囲に個人商店も建つという。



上/UR都市機構陸前高田復興支援事務所の犬童伸広と、災害公営住宅下和野団地の屋上から、かさ上げされた中心市街地を眺める。雪の日もダンパーが動き回り、復興への歩みは着実に進む。



左/建設が進む大型商業施設「アバッセたかた」の前で、商工会会長の伊東さんと。商業施設周辺には広場などを設け、一体的な魅力を生み出す仕組みも。

「ここがまちの核になるんですね」と周囲を見回す村上さん。「ようやくです。いよいよスタートするんだな、という気持ちです。オープンを前に、皆さんの期待をひしひしと感じています」と伊東さんも感慨深げだ。

まち全体を見渡せる場所へと足を運んだのが、UR都市機構が建設した災害公営住宅下和野団地。2014年秋、かさ上げされた土地にはじめてできた集合住宅では、すでに入居が始まっている。最上階のテラスからは、造成が進むまちが一望できる。造成地の広がりの中に、建設中のアバッセたかたの姿も見えた。その向こうには、キラキラと輝く海。「きつといいまちができる」形を見せ始めたまちに、村上さんと陸前高田の人々の夢も動き出している。

雪をかぶった奇跡の一本松を背に、故郷を見つめる村上さん。



村上弘明さんが巡った故郷のまち

「夢」が少しずつ動き出し まちに「希望」が見えてきた

岩手県 陸前高田市

2月、俳優・村上弘明さんが、テレビ番組の収録で、震災から6年たった故郷・陸前高田を訪れた。地震と津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田。そこで進む復興まちづくりを支える人々に、笑顔があった。

親友の言葉に希望を見つけた

「俺、被災地だからって、下を向いて、眉間にしわを寄せて暮らしたくないんだよ。笑って暮らした

いんだ」

村上さんの訪問を受け、高校時代の親友、磐井正篤さんがぼつりと話す。

磐井さんは地酒と和雑貨の店を震災で失い、仮設店舗で営業を再開。今年、中心市街地に移って本格的な店を再開する予定だという。震災からの日々で何より感じてきた人と人とのつながり、大勢の人の支えと出会い……。

「世間は6年もかかって遅い、というかもしれない。でも俺は6年

高台造成とかさ上げで新しいまちが生まれた

「よくここまで来たと思う。このまちに来ると、面白い人がいるな、楽しいなと思える、魅力あるまちに。震災を経たからこそ、このまちがそんなふうに変わってほしい、ばいと思ってるんだ」

親友の力強い言葉に、村上さんは何度もうなずき返した。

震災後、足しげく通っている故郷・陸前高田市に、今回はテレビカメラとともにやってきた。

あの日、15メートルにも達する津波に見舞われ、瓦礫に埋もれたまちは今、復興が形となって見え始めてきた。山を削って高台を造成し、その土で旧市街地を平均7〜8メートルかさ上げしているのだ。市街地整備は被災3県で最大規模、面積は300ヘクタールに及ぶ。

奇跡の一本松を背景に、収録がスタート。



陸前高田に来たら必ず立ち寄る、高校時代の同級生、磐井さんの店で。「震災によって得られた出会いや人とのつながりを大切にしたい」と語り合う。

村上弘明さん 俳優

むらかみ・ひろあき

岩手県陸前高田市広田町出身。高校卒業まで同地で過ごす。「仮面ライダー」でデビュー。以後、主演としてドラマ、映画、舞台などで幅広く活躍中。2014年からは岩手県魅力発信PR大使「いわて☆はまらいん大使」を務める。5月10日(水)21時〜テレビ東京系にてO.A予定の松本清張ドラマ「誤差」に主演として出演。

東北は日本の希望の星になる

震災直後から故郷・陸前高田をはじめ東北地方を訪れ、被災した人々に寄り添った活動を続けている村上弘明さん。6年間、復興を見つめてきたから、見えてきた希望があると語ります。

震災はまちを流し 自分の根っこをもぎ取った

——村上弘明さんは、生まれてから高校を卒業するまで陸前高田で暮らした。実家があったのは広田町。湾を抱くように突き出した広田半島の漁師町だ。

子どもの頃は海で泳いで遊び、アワビやウニをとったりしていましたね。家業は自転車屋とワカメ養殖兼業の半商半漁

生まれ育ち、自分という人間のすべてを育んだ場所。自分の基礎となる部分が失われてしまいました。根っこがもぎ取られたような、人間の価値を奪い取られたような感じで、なんでこんな仕打ちをするのかという怒りと、悔しさしかありませんでした。

心の奥底にしまった思いを聞いてあげたい

——村上さんは被災後1年ほどの間、毎月のように避難所を訪問した。

その後も被災地のために何ができるかを自問しながら、震災関係の仕事に積極的に関わらせていただいています。現地状況や人々の思いを伝え、震災を風化させまいという気持ちからです。

自分が俳優をやってきたのは、この時に役立つためなのではないか。そんな思いで動いてきました。

——あの日から6年。高台造成とかさ上げが進み、新しいまちの中心となる場所に大型商業施設がオープンする故郷の「今」を、村上さんはどのように見つめているのだろう。

被災直後の状況を考えれば、隔世の感があります。やっとここまで来て、まちの人たちも目に輝きが出てきました。そ



だったもので、養殖の手伝いなどもして、海はとても身近な存在でした。

——震災で父母は無事だったが、かわいがってくれた叔父と従弟が亡くなっている。陸前高田市の被害は県下最大で、中心市街地は壊滅し、たくさんの人々が犠牲になった。村上さんが故郷に足を踏み入れたのは、震災から3週間ほどたった頃のことだったという。

の一方で、まだ傷痕も多く残されていますし、復興はまだまだという思いもあります。本当の意味での復興は、孫の代までかかるでしょう。

身近な人を亡くしたり、それこそ一瞬の差で九死に一生を得た人もたくさんいます。その後も極限の状況のなか、生きているというより生かされている感覚だったと思います。今、まちの人々も表情がやわらかくなりましたが、あの時の思いや痛みは、生涯消えることはありません。それを抱えていくのが、故郷が被災した私のような立場の者も含めて、生かされた者の務めではないかと思っています。だからこそ幸せにならなくてはいけないし、いいまちをつくっていかなければいけない。俳優である私は、メディアなどを通じて被災地のことを伝え続けなければなりません。

これまで被災者は心の傷にふたをして、後ろを振り向かず前に進んできました。今、ようやくふたを少し開け、少しずつ話せるようになってきています。今後は心の奥底にしまった思いを話すことも、大切になると思います。私は被災した方々の聞き役も務めていきたいですね。

——震災の痛手はあまりに大きく、すべてを変えてしまったが、6年を経て、マインナスがプラスに転じる側面も見えてき

レンタカーに衣類やおむつを積んで、東京から20時間以上かけてたどりつきました。まちを一望できる坂の上まで来た時は、何と言ったらいいいのか……、まるで現実感が持てませんでした。

懐かしいまちが消えて、瓦礫の山が続いている。テレビの映像で見ているが、目のあたりにすると「悪い夢だ、こんな馬鹿なことがあるわけない」と、受け入れることができませんでした。

たと村上さんは言う。

一瞬で大切なものを失って、幸せのとならえ方や、本当に大切なもの、必要なことは何かを誰もが考えさせられた、どう生きるかを問われた6年だったと思います。確かなものは「今」で、明日があるかはわかりません。だからこそ今を大切に懸命に生きる。そう考えられることが、プラスになればと思います。

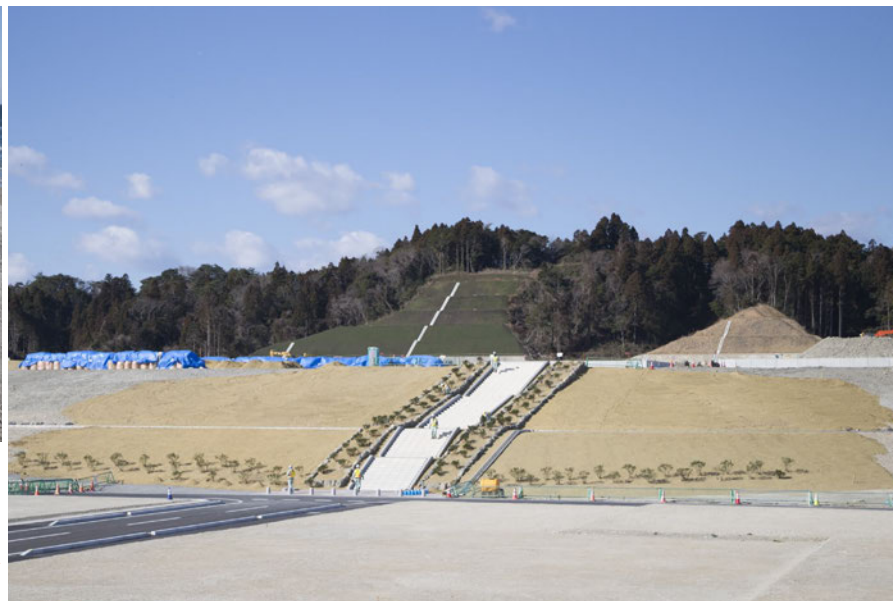
また、震災後はボランティアや行政、建設関係……、さまざまな人たちが外から来てくれました。陸前高田は田舎で、以前はやや閉鎖的な面もありましたが、多くの人々の助けや知恵を得て、誰もが人と人とのつながりや出会いの素晴らしい、大切さを実感したと思います。その思いを胸に臨めば、きっと魅力的なまちをつくることができる。誰もが行きたいと思えるまち、人にやさしく、外から来る人も歓迎して、住みたいと思えば誰もが住めるまち……。

陸前高田に限りませんが、震災はいろいろな意味で「変化」のきっかけになったと思います。豊かな自然に恵まれた東北が、これからは元気をもらえる場所、疲れたり悩んだりした人が、ここに来れば生きる力を取り戻せる場所になればいい。そう思っています。東北は日本の「希望」。これからも頑張りますよと言いたいですね。

陸前高田市に完成した災害公営住宅下野団地の屋上で、復興が進む故郷を背に。



植樹祭当日、薄磯のビーチクリーン活動も行われた。



ツツジが植えられた公園の階段がシンボルとなる造成地。高台と低地の双方に住宅が建てられる。

贈られたツツジは、公園（中街つつじ公園）予定地の階段脇に植えられた。実は、造成地の低地部と高台部を結ぶ公園にシンボルとなる参道を模した階段を設置し、両サイドに八幡宮のツツジを植えることを提案したのはUR都市機構だ。2013（平成25）年2月にいわき市と協力協定を結んだUR都市機構は、薄磯と豊間の2地区の市街地整備事業を担い、復興まちづくりを推進している。造成した宅地の整備はほぼ完了し、今

ツツジの階段をシンボルに

「薄磯は震災で多くのものを失いましたが、鶴岡八幡宮からツツジをいただけて、後生に残せるものができました」と感謝の思いを口にした。瀬谷さんが鶴岡八幡宮崇敬会「槐の会」主催の被災地支援イベントに参加したことが、今回の寄贈につながったのだ。

「由緒あるツツジですので大切に育てて、永遠に続くまちをつくっていききたい。薄磯段葛の誕生です」と微笑む薄磯の鈴木幸長区長は、ツツジが彩るこの地に、戻って来る人が増えることを期待している。



山を切り開いて造成した高台の宅地に立つ、URいわき復興支援事務所の久宮和彦。

「ツツジの寄贈の話聞き、どこに植えるのが一番適切かを考え、いわき市や薄磯区の方々、工事関係者と協議を重ねて実現に至りました。ツツジの花壇に配置している庭石は、震災前からこの地域で使われていたものです」とUR都市機構いわき復興支援事務所の久宮和彦は説明する。地元の遺産も活用しながら、地域の人々の憩いの場、心の拠り所となることを願って花壇を整備した。植樹祭には地元の人やボランティアなど約150人が参加。ツツジに水や肥料を与える人々の笑顔の前に、UR都市機構職員の表情も和んでいた。この4年間、職員たちは地域の人々の声に耳を傾けながら、どうしたら安心・安全で

7年ぶりの海開き

ツツジに彩られた階段を上がってみた。まるで空に続くような階段の先にある高台に着いて驚いた。振り返ると、防災緑地の先に青く光る大海原が広がっている。この景観に魅かれ、新たに移り住む人もいるにちがいない。震災前、薄磯の海岸は市内でも一番人気の海水浴場だった。この夏、薄磯の海水浴場が7年ぶりに再開されるといふニュースも、地域の人たちの気持ち明るくしている。

若宮大路が起点となって鎌倉のまちができていったように、中街つつじ公園を起点に薄磯の新しいまちが広がっていく。



「薄磯はいわき市内で震災の犠牲者が最も多かった地域。URさんをはじめ全国からたくさんの方に応援に来ていただき、復興整備が順調に進んでいることに感謝しています」と語る、いわき市の鈴木典弘副市長。



記念植樹祭には薄磯にお住まいの方やボランティアも参加。ツツジに土寄せし、水やりをした。



鶴岡八幡宮のツツジ。若宮大路の中央に一段高く造られた「段葛」に植えられていた。「ツツジを通して薄磯の方たちに寄り添い、見守っていききたい」と吉田茂穂宮司。

目に見えるかたちで応援したい

今年2月、津波で甚大な被害を受けた薄磯地区の造成地に、ツツジが目見えした。鎌倉の鶴岡八幡宮への参詣道である若宮大路の「段葛」に植えられていたツツジが寄贈されたのだ。

2月19日には復興祈念のツツジ

「鶴岡八幡宮の段葛がある若宮大路は参詣道であり、御百度石の機能もついています。おそらく源頼朝も北条政子も願いを携えて往復したことでしょう。震災後、何か目に見えるかたちで被災地の方々に応援したいと思い、願いを込めて通う道に植わっていたツツジをお分けしたいと考えました」と吉田茂穂宮司。その思いを受けて、薄磯在住の瀬谷貢一さんは、

ツツジと共に寄り添い、復興を祈る

福島県 いわき市

この春、いわき市は明るいニュースに包まれた。まささらな造成地を彩る復興祈願のツツジが鎌倉から届いたのだ。



ツツジの記念植樹。右から、いわき市の鈴木典弘副市長、薄磯区の鈴木幸長区長、鶴岡八幡宮の吉田茂穂宮司、いわき市議会の大峯英之議員。



植樹祭後の交流会で談笑する薄磯区の鈴木幸長区長(右)とURの久宮所長。交流会ではあんこう鍋がふるまわれた。



2017年3月 女川駅前商業エリア ©佐藤慎吾

女川町
Onagawa



2011年4月 ©田中正秋/アフロ



2017年3月 女川駅 ©佐藤慎吾



2017年3月 女川町中心部地区 ©福田正紀

女川町
Onagawa

Miyagi 宮城県

石巻市
Ishinomaki



2011年3月 ©本間英一



2017年2月 新門脇地区



2011年3月 門脇地区 ©本間英一



2017年3月 新門脇地区 ©佐藤慎吾

Before & After

2011 → 2017

東日本大震災から
6年の軌跡

大震災から6年。
復興の槌音は、確実な響きとなって
被災地にこだましています。
新たなまちづくりが進む
東北3県のなかで、
今回、本誌で紹介した6つの地区の、
6年前と今の姿を
写真でお届けします。

2011年3月 女川町 ©毎日新聞社/アフロ



2017年2月 旧市街地

©佐藤慎吾

陸前高田市
Rikuzentakata

Iwate
岩手県



2017年2月 下和野団地



2011年3月 ©田中正秋/アフロ



2017年4月 薄磯地区

©UR

Fukushima
福島県

いわき市
Iwaki



2011年3月 ©毎日新聞社/アフロ



2011年3月 本塩釜駅周辺 ©塩竈市



2011年3月 塩釜港 ©塩竈市



2017年3月 市営錦町東住宅 ©佐藤慎吾

塩竈市
Shiogama



2017年3月 旧市街地

©青木登

Miyagi
宮城県

南三陸町
Minamisanriku



2011年3月 ©毎日新聞社/アフロ



2017年3月 南三陸志津川さんさん商店街

©青木登



2011年3月

©読売新聞/アフロ



岩手県

岩泉町 町立小本小学校・町立小本中学校
 精一杯の元気と笑顔で
 熱く交流!



参加メンバー

大家志津香	岩花詩乃
北原里英	田島芽瑠
阿部マリア	川本紗矢
村山彩希	後藤萌咲
込山榛香	須藤凜々花
佐藤七海	惣田紗莉渚
北川綾巴	久保怜音
山本彩加	



届け!
 笑顔
 第7回
 宮城県

AKB48
 「誰かのために」プロジェクト
 東北復興支援

山元町 町立山下第二小学校
 笑顔のお返しに
 地元の子どもたちから贈呈された花束

震
 災から6年を迎え、3月4日の訪問
 で実に63回目となったAKB48「誰かのために」プロジェクト東北復興支援。
 今回は岩手県、宮城県、福島県の被災地を、3つのグループに分かれて訪問した。各会場で行われるイベントの前に、メンバーは犠牲者への献花と1分間の黙とうを行った。イベント会場を訪れた人たちは、大きな声援を送り、メンバーたちは精一杯の笑顔で歌と踊りを披露した。宮城県山元町を訪れた、さやねえ、こと山本彩が言う。
 「まちが新しくなっていると感じました。」



家が建ったり、公園ができた。復興支援を通じて、あらためてまちづくりをしている人たちの存在のありがたさを実感しながら、自分たちができること、目には見えませんが、元気が笑顔を生み出せる活動を続けられればいいと思いました」
 まちは生まれ変わり始めた。AKB48の笑顔の積み重ねも、ひとつの力になっている。



福島県

広野町 広野町中央体育館
 献花と黙とうの後は
 AKB48ならではの歌とハイタッチ!



参加メンバー

柏木由紀	舞木香純
宮崎美穂	後藤楽々
大場美奈	吉田朱里
大森美優	太田夢莉
武藤十夢	朝長美桜
岡田彩花	田中美久
岡田奈々	村雲颯香
谷口めぐ	田北香世子

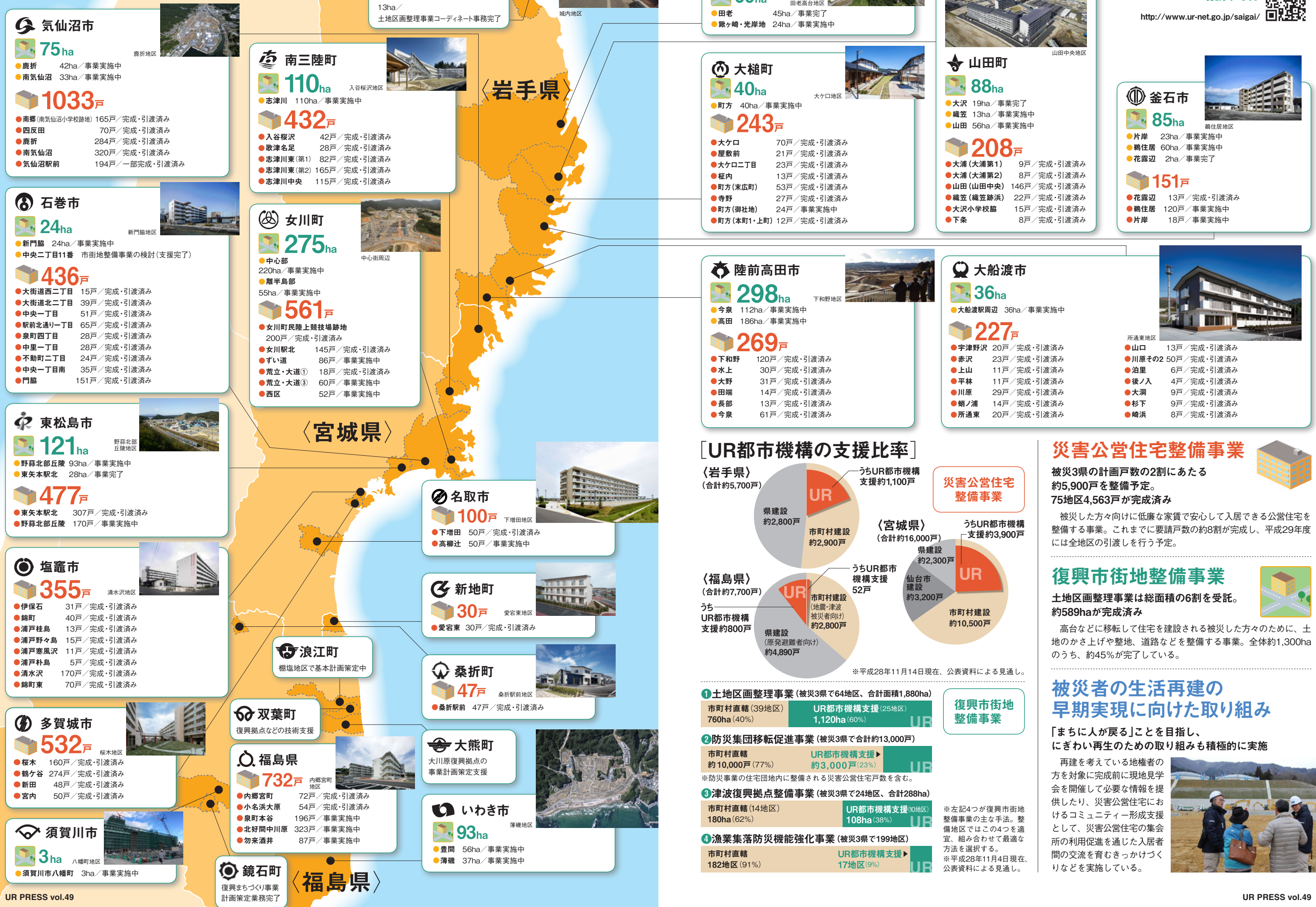


参加メンバー

小嶋菜月	福岡聖菜
佐々木優佳里	江籠裕奈
高橋朱里	山本彩
岩立沙穂	矢倉楓子
大島涼花	矢吹奈子
篠崎彩奈	荻野由佳
茂木忍	菅原茉椰
小嶋真子	松岡はな

UR都市機構が取り組む復興支援MAP2017

※データは平成29年4月1日時点 ※災害公営住宅整備事業の表記戸数は建設計画戸数



気仙沼市

75ha
鹿折地区

- 鹿折 42ha / 事業実施中
- 南気仙沼 33ha / 事業実施中

1033戸

- 南郷(南気仙沼小学校跡地) 165戸 / 完成・引渡済み
- 四反田 70戸 / 完成・引渡済み
- 鹿折 284戸 / 完成・引渡済み
- 南気仙沼 320戸 / 完成・引渡済み
- 気仙沼駅前 194戸 / 一部完成・引渡済み

石巻市

24ha
新門脇地区

- 新門脇 24ha / 事業実施中
- 中央二丁目11番 市街地整備事業の検討(支援完了)

436戸

- 大街道西二丁目 15戸 / 完成・引渡済み
- 大街道北二丁目 39戸 / 完成・引渡済み
- 中央一丁目 51戸 / 完成・引渡済み
- 駅前北通り一丁目 65戸 / 完成・引渡済み
- 泉町四丁目 28戸 / 完成・引渡済み
- 中里一丁目 28戸 / 完成・引渡済み
- 不動町二丁目 24戸 / 完成・引渡済み
- 中央一丁目南 35戸 / 完成・引渡済み
- 門脇 151戸 / 完成・引渡済み

東松島市

121ha
野蒜北部丘陵地区

- 野蒜北部丘陵 93ha / 事業実施中
- 東矢本駅北 28ha / 事業完了

477戸

- 東矢本駅北 307戸 / 完成・引渡済み
- 野蒜北部丘陵 170戸 / 事業実施中

塩竈市

355戸
清水沢地区

- 伊保石 31戸 / 完成・引渡済み
- 錦町 40戸 / 完成・引渡済み
- 浦戸桂島 13戸 / 完成・引渡済み
- 浦戸野々島 15戸 / 完成・引渡済み
- 浦戸寒風沢 11戸 / 完成・引渡済み
- 浦戸朴島 5戸 / 完成・引渡済み
- 清水沢 170戸 / 完成・引渡済み
- 錦町東 70戸 / 完成・引渡済み

多賀城市

532戸
桜木地区

- 桜木 160戸 / 完成・引渡済み
- 鶴ヶ谷 274戸 / 完成・引渡済み
- 新田 48戸 / 完成・引渡済み
- 宮内 50戸 / 完成・引渡済み

須賀川市

3ha
八幡町地区

- 須賀川市八幡町 3ha / 事業実施中

南三陸町

110ha
入谷桜沢地区

- 志津川 110ha / 事業実施中

432戸

- 入谷桜沢 42戸 / 完成・引渡済み
- 歌津名足 28戸 / 完成・引渡済み
- 志津川東(第1) 82戸 / 完成・引渡済み
- 志津川東(第2) 165戸 / 完成・引渡済み
- 志津川中央 115戸 / 完成・引渡済み

女川町

275ha
中心街周辺

- 中心部 220ha / 事業実施中
- 離半島部 55ha / 事業実施中

561戸

- 女川町民陸上競技場跡地 200戸 / 完成・引渡済み
- 女川駅北 145戸 / 完成・引渡済み
- ずい道 86戸 / 事業実施中
- 荒立・大道① 18戸 / 完成・引渡済み
- 荒立・大道② 60戸 / 事業実施中
- 西区 52戸 / 事業実施中

浪江町

棚塩地区で基本計画策定中

双葉町

復興拠点などの技術支援

福島県

732戸
内郷宮町地区

- 内郷宮町 72戸 / 完成・引渡済み
- 小名浜大原 54戸 / 完成・引渡済み
- 泉町本谷 196戸 / 事業実施中
- 北好間中川原 323戸 / 事業実施中
- 勿来酒井 87戸 / 事業実施中

鏡石町

復興まちづくり事業
計画策定業務完了

野田村

13ha
城内地区

- 城内 13ha / 土地区画整理事業コーディネート事務完了

名取市

100戸
下増田地区

- 下増田 50戸 / 完成・引渡済み
- 高柳辻 50戸 / 事業実施中

新地町

30戸
愛宕東地区

- 愛宕東 30戸 / 完成・引渡済み

桑折町

47戸
桑折駅前地区

- 桑折駅前 47戸 / 完成・引渡済み

大熊町

大川原復興拠点の
事業計画策定支援

いわき市

93ha
薄磯地区

- 豊間 56ha / 事業実施中
- 薄磯 37ha / 事業実施中

宮古市

69ha
田老高台地区

- 田老 45ha / 事業完了
- 鍛ヶ崎・光岸地 24ha / 事業実施中

大槌町

40ha
大ヶ口地区

- 町方 40ha / 事業実施中

243戸

- 大ヶ口 70戸 / 完成・引渡済み
- 屋敷前 21戸 / 完成・引渡済み
- 大ヶ口二丁目 23戸 / 完成・引渡済み
- 碓内 13戸 / 完成・引渡済み
- 町方(末広町) 53戸 / 完成・引渡済み
- 寺野 27戸 / 完成・引渡済み
- 町方(御社地) 24戸 / 事業実施中
- 町方(本町1・上町) 12戸 / 完成・引渡済み

陸前高田市

298ha
下和野地区

- 今泉 112ha / 事業実施中
- 高田 186ha / 事業実施中

269戸

- 下和野 120戸 / 完成・引渡済み
- 水上 30戸 / 完成・引渡済み
- 大野 31戸 / 完成・引渡済み
- 田端 14戸 / 完成・引渡済み
- 長部 13戸 / 完成・引渡済み
- 今泉 61戸 / 完成・引渡済み

大船渡市

36ha
大船渡駅周辺

- 大船渡駅周辺 36ha / 事業実施中

227戸

- 宇津野沢 20戸 / 完成・引渡済み
- 赤沢 23戸 / 完成・引渡済み
- 上山 11戸 / 完成・引渡済み
- 平林 11戸 / 完成・引渡済み
- 川原 29戸 / 完成・引渡済み
- 蛸ノ浦 14戸 / 完成・引渡済み
- 所通東 20戸 / 完成・引渡済み

UR都市機構の支援比率

〈岩手県〉(合計約5,700戸)

- 県建設 約2,800戸
- 市町村建設 約2,900戸
- うちUR都市機構支援 約1,100戸

〈宮城県〉(合計約16,000戸)

- 県建設 約2,300戸
- 市町村建設 約10,500戸
- うちUR都市機構支援 約3,900戸

〈福島県〉(合計約7,700戸)

- 県建設(原免避難者向け) 約4,890戸
- 市町村建設(地震・津波被災者向け) 約2,800戸
- うちUR都市機構支援 約800戸

※平成28年11月14日現在、公表資料による見通し。

山田町

88ha
山田中央地区

- 大沢 19ha / 事業完了
- 織笠 13ha / 事業実施中
- 山田 56ha / 事業実施中

208戸

- 大浦(大浦第1) 9戸 / 完成・引渡済み
- 大浦(大浦第2) 8戸 / 完成・引渡済み
- 山田(山田中央) 146戸 / 完成・引渡済み
- 織笠(織笠跡浜) 22戸 / 完成・引渡済み
- 大沢小学校脇 15戸 / 完成・引渡済み
- 下条 8戸 / 完成・引渡済み

釜石市

85ha
巖手居地区

- 片岸 23ha / 事業実施中
- 鶴住居 60ha / 事業実施中
- 花露辺 2ha / 事業完了

151戸

- 花露辺 13戸 / 完成・引渡済み
- 鶴住居 120戸 / 事業実施中
- 片岸 18戸 / 事業実施中

復興市街地整備事業

土地地区画整理事業は総面積の6割を受託。
約589haが完成済み

高台などに移転して住宅を建設される被災した方々のために、土地のかさ上げや整地、道路などを整備する事業。全体約1,300haのうち、約45%が完了している。

被災者の生活再建の早期実現に向けた取り組み

「まちに人が戻る」ことを目指し、にぎわい再生のための取り組みも積極的に実施

再建を考えている地権者の方を対象に完成前に現地見学会を開催して必要な情報を提供したり、災害公営住宅におけるコミュニティー形成支援として、災害公営住宅の集会所の利用促進を通じた入居者間の交流を育むきっかけづくりなどを実施している。

災害公営住宅整備事業

被災3県の計画戸数の2割にあたる約5,900戸を整備予定。
75地区4,563戸が完成済み

被災した方々向けに低廉な家賃で安心して入居できる公営住宅を整備する事業。これまでに要請戸数の約8割が完成し、平成29年度には全地区の引渡しを行う予定。

復興市街地整備事業

復興まちづくり事業
計画策定業務完了

復興市街地整備事業

復興まちづくり事業
計画策定業務完了

復興市街地整備事業

復興まちづくり事業
計画策定業務完了

定期的に情報を更新しています。
<http://www.ur-net.go.jp/saigai/>



岩手県

岩泉町

「岩泉町における復旧・復興まちづくりの推進に向けた覚書」を2017年3月16日に交換

昨年8月30日の「平成28年台風10号」の豪雨による河川の氾濫、土砂崩れで、死者22名を含む甚大な被害を受けた岩泉町。インフラの復旧工事と復興まちづくりに向けての膨大な事業に、町と、復興まちづくりのノウハウ・技術力をもつUR都市機構、自治体における多くの発注者支援業務や複数の工事間マネジメント実績を有するURリンケージの三者でスクラムを組んで挑む。



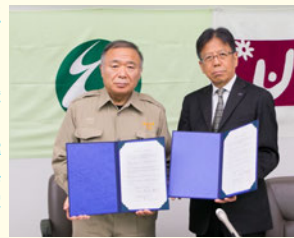
©国土地理院



上/中島正弘UR都市機構理事長(左)、伊達勝身岩泉町長(中央)、渡邊輝明URリンケージ代表取締役(右)。
左/小本川の氾濫により、高齢者福祉施設など流域で大きな被害が出た。



上/糸魚川市消防本部の近藤正夫氏の案内で現場を見て歩く。火柱は3階建てのビルより高くなり、強風で火が120mも飛んだという。



右/3月21日に糸魚川市とUR都市機構で「糸魚川市駅北復興まちづくりの推進に向けた覚書」が交わされた。

沿岸市町村と異なり、糸魚川の被災地はまちなかの一部分。すぐに再建したい被災者もいれば、じっくり取り組みたい人もいる。「個別の要望に応えながら、全体の計画を進める難しさがありますが、市の将来を見据えて、焼失した4ヘクタールだけでなく周辺部も含めた17ヘクタールのまちづくりを計画中です」と語る太田は、市が一丸となつてまちづくりに取り組むための雰

囲気づくりも自身の役目だと感じている。そんな太田の存在が心強いと、市産業部復興推進課の斉藤孝課長は言う。「復興まちづくりに関してはさまざまな意見が出てきますが、太田さんは一人ひとりの話を丁寧に聞きつつ、まとめあげていくのがとても上手。復興の知識もノウハウもあり、他の課のメンバーも含め大変心強く、太田さんから勇気ももらっています」

復興推進課に着任以来、息つく暇がないほど多忙な斉藤課長の心のよりどころは、2月に生まれたお孫さんの存在。「孫が大きくなった時に、うちのじいさんがこのまちづくりに関わったんだよ、いいまちにしてくれたなと言ってもらえるような仕事をしたいと思っています」未来を担う世代を見据えての糸魚川のまちづくり。それをUR都市機構も全力でサポートしている。

熊本県

「平成28年熊本地震における災害公営住宅の整備に係る基本協定」



宇城市 2017年2月23日に締結

守田憲史宇城市市長(左)、内山省吾UR都市機構九州支社長(右)。



御船町 2017年3月22日に締結

藤本正幸御船町長(左)、内山省吾UR都市機構九州支社長(右)。

昨年4月、震度7クラスの大きな揺れが続いた「平成28年熊本地震」。家屋倒壊や土砂崩れによる被害が大きく、住宅全壊は8,600棟、半壊は33,400棟を超え、直接の死者50名、関連死200名を超える大災害に至った。

地震直後から熊本県に入り、被災者への住戸の提供やさまざまな技術支援をしてきたUR都市機構は、今年2月に県内の宇城市と、3月に御船町と「平成28年熊本地震における災害公営住宅の整備に係る基本協定」を締結。東日本大震災後、約5,900戸の災害公営住宅を整備した実績を踏まえ、迅速な復興に向けて支援を行っている。

写真提供/宇城市

右/地震後の宇城市。自力再建が難しい被災者に提供する災害公営住宅を100戸建設予定。
下/建設候補地のひとつ、宇城市豊野町の市有地。地域特性や高齢者にも配慮した住宅を建設する計画だ。



UR 災害復興支援の取り組み

災害からの復旧・復興を各地で全力サポート!

阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震、東日本大震災と復興支援に取り組んできたUR都市機構。これまでの経験やノウハウを生かし、災害からの復旧・復興に取り組む自治体と連携し、復興を支援している。



糸魚川駅と日本海の間広がる被災エリア。建物の基礎の撤去作業は夏までに終了予定。道路を拡幅し、「居住」「にぎわい」「商業飲食」の3つのエリアに分けて復興を進める計画だ。

新潟県

糸魚川市

宿

場町の風情を残す日本海に面したまち、糸魚川。その中心市街地で大規模な火災が起きたのは昨年12月22日、フェーン現象で気温が20度近くまで上がり、強い南風が吹く日だった。火災現場が昔ながらの雁木造りの商店街や木造住宅の密集地域だったこともあり、飛び火と延焼で被害が拡大。近隣自治体の消防や消防団の応援も受けての懸命の消火活動にもかかわらず、焼失は4ヘクタール、147棟に及んだ。



復興まちづくりを牽引する市の復興推進課。奥が斉藤課長、右奥がUR都市機構から出向している太田。

国土交通省の

火後いち早く現地に入ったUR都市機構は、2月からは職員を糸魚川市に派遣して支援。①災害に強いまち、②賑わいのあるまち、③住み続けられるまち、という3本柱を掲げ、復興まちづくりの計画作成に取り組む市をサポートしている。

米田徹糸魚川市長は、人口減少、高齢化、商店街の活性化といった被災前からの課題もあり、長い目で見たまちづくり計画が必要と話す。UR都市機構へ「多くの課題や困難が予想されるなか、専門知識と経験のある人材による体制整備が不可欠なので、ぜひご尽力いただきたい」と期待を寄せた。それを受けてUR都市機構理事長 中島正弘は、「市だけでは抱えるには負担が大きすぎる仕事なので、URの総力を挙げて糸魚川市の復興と一緒に取り組んでいきます」と力強く応えた。UR都市機構から市に出向している産業部復興推進課参事の太田亘は、阪神・淡路大震災、東日本大震災の復興支援を経験したエキスパート。糸魚川に来る前は岩手の震災復興に携わっていた。まち全体が津波にのみ込まれた東北の

団地で楽しく防災を考える 「DANCHI Caravan in町田山崎」

災害に備える知識を学ぶワークショップや被災時に住まいとなるテントに泊まる体験など団地を舞台に「もしも」のときについて学び、体験する催しが大好評だ。



町田山崎団地は総戸数約3,900戸の大型団地。その団地のほぼ中央にある芝生の広場がイベントの会場だ。親子でテント張りをしたり、薪割りや火おこしを体験したり。いつもの団地が非日常の空間になっていた。

盛りだくさんのプログラム 参加者も増加

団地の中の小高い丘にある広場にはテント仕立てのブースが並び、子どもから年配者まで多くの人々にぎわっていた。町田駅からバ



「防災意識を高めるだけでなく、来場者に団地の良さを知ってほしい」と話すUR都市機構の入村。

スで約15分の場所にある町田山崎団地。3月4、5日に行われた「DANCHI Caravan in町田山崎」は、「もしも」のときの備えを楽しく学ぼうというイベントだ。

UR都市機構と町田山崎団地自治会・自主防災会が主催し、企画運営を、「無印良品」を展開する株良品計画が担って今年で3回目。年々規模を広げ、参加者数を増やしている。身の周りのものを緊急時に役立てるためのワークショップや、被災時に屋外や避難所で過ごすことを想定してテント泊を体験する「団地deキャンプ」、消防の協力による起震車や煙ハウス体験、警察による災害時復旧の紹介など、プログラムは盛りだくさんだ。

テント泊と防災を ドッキングさせてみた

実はこのイベント、始まりは「キャンプ」だったという。UR都市機構の東日本賃貸住宅本部に、若



「テント泊体験は、小さなお子さん連れの家族に興味を持っていた」と話す良品計画の石川さん。

こうしたイベントになったおかげで、団地の外からもたくさんの方がやってきます。周辺地域の人たちの防災意識も高め、交流できるのがメリットですね」

と自治会長の吉岡栄一郎さん。常備の乾物と調味料を使った超簡単調理や、火おこし・たき火体験、近隣にある桜美林大学の学生たちによる子ども外遊び塾などプログラムは多彩で、地元FMさがみによる中継や、ケーブルテレビJ・COMの取材も入った。

1日目の昼過ぎからは会場南側の広い芝生のスペースで、事前に募集した12組41名の参加者たちが、スタッフの指導を受けながらテントを設営した。夕方のキャンプファイヤーイベントで体を動かす遊びに興じた後、いよいよテント泊に挑戦だ。子ども連れのファミリーに団地自治会の年配者も加わって、少ない水や火で調理する方法や、皿を汚さない工夫などを学びながら、楽しく料理を作るうち、辺りは夕闇に包まれていく。

宿泊も含むユニークな体験を提供するこのイベントは、新しい防災への取り組みとして今後も注目を集めそうだ。



上/夕方はキャンプファイヤーで体を動かし、いよいよ「団地deキャンプ」の時間。中/団地の広場に設営したテントで食事。下/少ない水で米を炊いたり、小さな鍋でパスタをゆでるノウハウなどを学びながら、参加者自身で食事作り。



上/団地外からの来場者も多く、防災意識の高まりを実感した。右/普段の食品を非常時、いかに活用するかを提案する無印良品「いつものもしも」ワークショップコーナー。下/イベントを盛り上げたUR都市機構O-LDK部メンバー。



団地自治会長の吉岡さんは、大きな災害のときこそ、集まって住む団地の良さを発揮したいと考えている。

「防災訓練や防災まつりにもなかなか人が集まらない時代ですが、町田山崎団地の団地自治会・自主防災会とも連携してミーティングを重ねてきた。自治会・自主防災会では以前から秋に避難訓練、春には防災まつりを実施してきたが、防災まつりをそのままこのイベント2日目のプログラムに組み込んだ。

「防災訓練や防災まつりにもなかなか人が集まらない時代ですが、町田山崎団地の団地自治会・自主防災会とも連携してミーティングを重ねてきた。自治会・自主防災会では以前から秋に避難訓練、春には防災まつりを実施してきたが、防災まつりをそのままこのイベント2日目のプログラムに組み込んだ。



A 施行前 施行後 分譲マンションを建設。



B 施行前 施行後 道幅が広くなり、安全なまちになった。



上/焼失後の様子。右/新しくなった本町東地区。

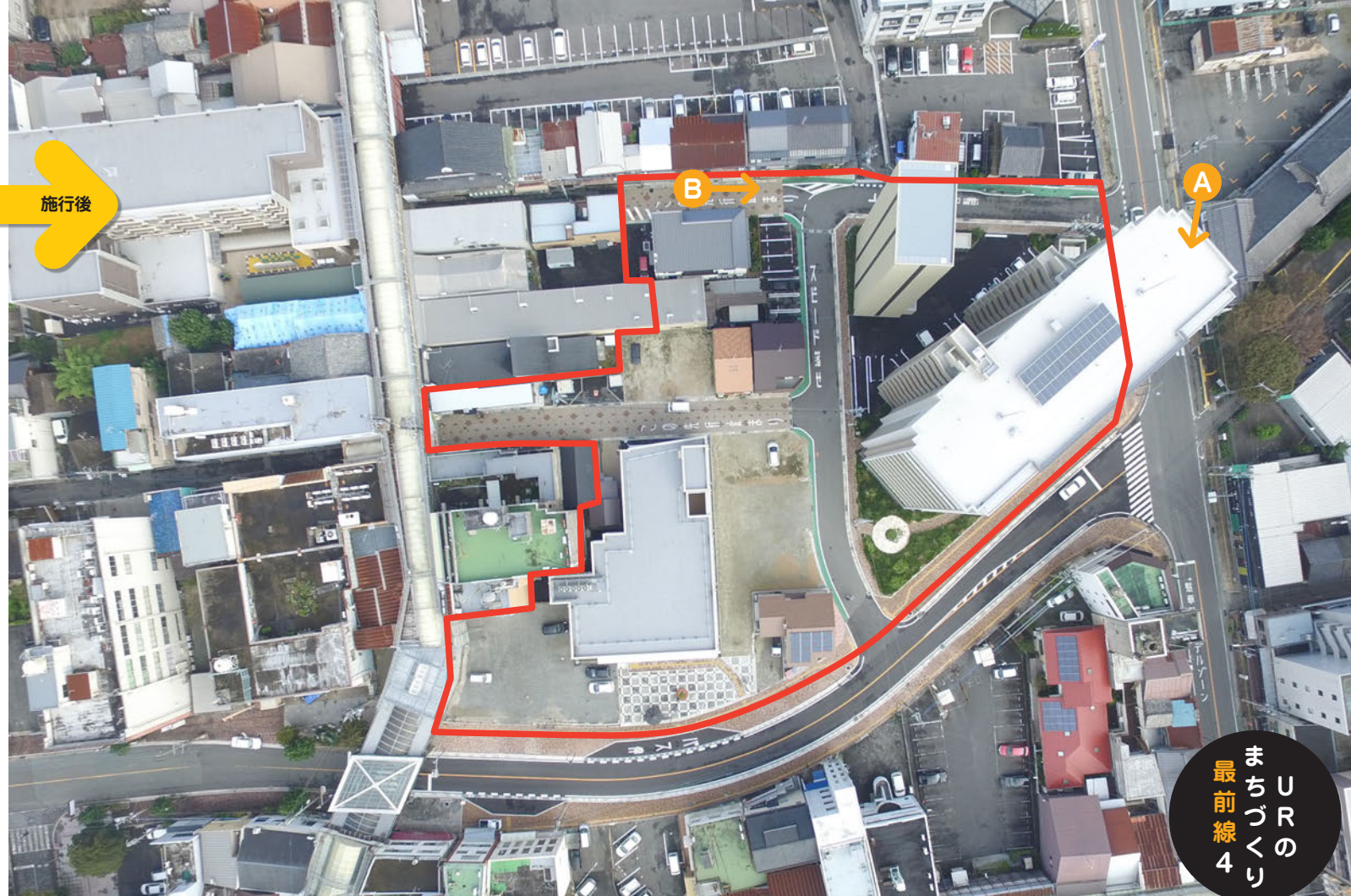
連日親子連れでにぎわっている「子育てひろば」の前に立つ、右から飯塚市場商業協同組合理事長の野中憲一さん、飯塚市の中村洋一課長、UR都市機構の岩井。



平成25年9月に撮影した施行前の本町東地区。



施行前 施行後



平成28年10月に撮影した施行後の本町東地区。赤い線の内側が、土地区画整理事業エリア。

URの
まちづくり
最前線4

飯塚本町東土地区画整理事業 福岡県飯塚市 火災で失われた中心市街地が 20年後もにぎわうために

炭鉱のまちとして栄えた飯塚市の中心街が、大規模な火災に見舞われたのは9年前。ここに新たなにぎわいのあるまちをつくり出そう。

UR都市機構は飯塚市とともに土地区画整理事業に取り組んだ。

店舗密集地を 火災が襲った

福岡県のほぼ中央に位置する飯塚市は、かつて筑豊炭田の中心都市として栄えたまち。しかし、昭和30年代以降、炭鉱の閉山によって人口は減少。市内を流れる遠賀川の西側に広がる古くからの中心市街地は、郊外型大規模小売店に客をとられ、空き店舗が目立つようになっていた。さらに平成15年には洪水被害、平成20年には小さな飲食店が密集していた飯塚本町で約4000㎡を焼失する大火災が起これ、まちの風景は一変した。

平成18年3月の1市4町の合併を機に、コンパクトなまちづくりへの転換を掲げていた飯塚市では、中心市街地活性化事業を進めるなかで、焼失した一帯と周辺ににぎわいを取り戻す「飯塚本町東土地区画整理事業」に取り組むことを決定。「しかし、飯塚市には土地区画整理事業

の経験がなく、専門の部署もなければ、マンパワーがありません。そこで福岡県とお付き合いのあったUR都市機構に支援をお願いしました」と、この事業を担当した飯塚市企画調整部の中村洋一課長は振り返る。

UR都市機構九州支社で、平成24年の本事業の立ち上げから担当したのは、飯塚都市再生事務所の岩井創^{はじめ}だ。

「飯塚市とは、10年後、20年後もにぎわいが続くまちをつくらうということ合意し、平成25年からは同じフロアに事務所を構え、市とともにこの事業を推進してきました」

中立的立場で アドバイスを

UR都市機構と飯塚市は、権利者たちと勉強会を立ち上げるとともに、被災した権利者の意向調査を始めた。約110名いる権利者のもとを市の担当者とともに

に1軒ずつ訪ね、それぞれの事情と意向を丁寧に聞き取っていくのだ。

土地を売りたい人、事業を継続したい人など、各人の意向がわかってきたところで、UR都市機構は、分譲マンション、子育てひろば、商業ゾーンで構成するフレーム提案を行った。

「私の仕事は、市の担当者がスムーズに仕事を進められるよう準備をし、市の仕事をバックアップすること。権利者には高齢者も多く、自分たちがこれからどうなるのか、不安に思う方も多くいらっしゃいました。そのような方に補償費や移転先のことなどをかみくだいて説明し、率先して情報を提供するよう、市と調整していきました」と岩井が言う。

それから市の担当者、文字通り二人三脚で権利者のもとに何度も足を運んだ。権利者一人ひとりの意見を聞き、それをどう反映させるかということに心を砕きながら、各人の希望に沿うかたちで土地を整理。ついに昨年7月、当初の予定通り事業は完了した。10月には分譲マンションも完成し、新たに数十世帯がこのまちに住み始めた。子育てひろばは当初の計画を上回る、毎日110人ほどの利用者でにぎわっている。

事業終了が 本当のスタート

スタートからこの事業を担当した中村

課長が一番誇りに思うのは、予定通りに事業を終了させることができたことだという。

「URさんに協力してもらって、本当に良かったと思っています。URは中立的な立場で物事を進めていけるのが強み。権利者に対して、その中立的な立場から専門的にアドバイスをされるので、相手の方も安心してスムーズに話を進めることができました」

この一角で「飯塚公設市場」を営んでいた野中憲一さんは、「火災が起る前から、自分たちの店舗だけでなく、このまち全体が変わる必要があると危機感を抱いていた」と話す。そこに火災が起きたとき、市とUR都市機構から再開の話がきたときには、前向きに協力したという。だが、野中さんはどのような形で商売を再建するか、まだ決めかねている。

「これからのこの地域に合った商店とは、どういう形なのか。地域の人に求められるものをつくらうと、模索しているところです」と野中さん。

このまちの本当の活性化は、今がスタート地点。ハードは整った。中村課長は、高齢者だけでなく、市内に3校ある大学との連携や、新たな住民、子育て世代の人々も巻き込んで、コミュニティの場として商店街が楽しいゾーンになるよう、これからもまちづくりを応援するつもりだという。

URのまち 福岡市 渡辺通駅・薬院駅周辺

あのまち このまち 歩いてみよう! その10

URが手がけた土地が、時を経て、素敵なまちに育ちました。地図を手に歩いてみませんか?

エリア	開発前	開発期間
渡辺通駅北	事務所・病院・駐車場等	2006年~2011年
薬院大通り西	公団賃貸住宅・駐車場等	2002年~2005年

薬院・警固エリア
ハイセンスな店やカフェが集まる。路地巡りも楽しい!



警固神社
天神のご真中に鎮座! 開運・厄除けの御利益で有名な神社

HUS bisque-shop
暮らしに関わるアイテムを幅広く手掛けているメーカのアンテナショップ

なぜこの名前?
警固(けご)
九州の行政機関だった大宰府。その国防の要の役所、警固があったから。

渡辺通り屋台エリア
个性的でおいしい屋台が数軒並ぶ

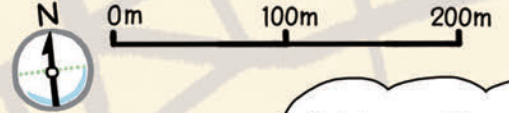
なぜこの名前?
渡辺通り
西鉄開通に尽かした呉服商・渡辺與八郎からとった

福岡県内すべての蔵元の地酒がそろる!
友添本店
キャナルシティ博多方面へのアクセスが便利に

一流ホテルや料亭からの注文も多いプロフェッショナルなお店がそろってます! プロのアドバイスを聞いたリ、値切ったり、対面販売の醍醐味をぜひ味わって!

柳橋連合市場協同組合 理事長 楠下 広師さん

柳橋連合市場
博多の台所! 新鮮食材、本格食材の宝庫!



旬魚 鮭 綾元
地元食材を使ったつまみと鮭、全国のお酒をリーズナブルに楽しめるカフェのような鮭店



東京からここ薬院に、会社を移転し、移住しました。とにかく居心地がよくて、やりたいこともどんどん出てきます!



フルーツグラノーラ FRUCTUS
オーナー 成田博昭さん

博多炉端 魚男
シンプルな定番メニューから自由な発想のアイデアメニューまでそろう



フルーツグラノーラ ブームの生みの親
FRUCTUS

福岡の人はとても地元を愛していて、そして心底あたかいです! 大都市だけと食文化も自然も豊かです!

タウン誌「シティ情報ふくおか」編集部 福島大祐さん



創刊約40年! 本誌もムック本も充実の内容

麺劇場玄瑛
劇場仕立て!のラーメン屋さん 味はコクがありつつもパリと上品



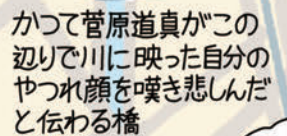
B.B.B POTTERS
日々の生活をハイセンスにするこだわりの雑貨の宝庫!



ヘルシーでおいしいグラノーラ各種がなんと648円で食べ放題!!
加工所にイートインスペースを併設



姿見橋
かつて菅原道真がこの辺りで川に映った自分のやつれ顔を嘆き悲しんだと伝わる橋



REC COFFEE
日本のスペシャルティコーヒーを牽引中!



福岡のうどんが熱い!
実は福岡のソウルフード! 新旧様々なうどん店あり



1 柳橋食堂
斜め向かいの吉田鮮魚店が経営 Aセット750円 魚が超美味



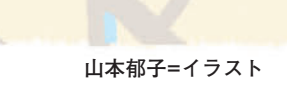
2 やまぐま蒲鉾
ひとロサイズのちぎり天が種類豊富で楽しい!



3 原口海産物専門店
国産たらこプラス天然羅臼昆布だしで、まるやか爽やかな味!



とどろき酒店 薬院stand!
酒屋で立ち呑みができる「角打ち」が楽しめる



福岡のかわ屋警固店
福岡名物・カリカリのかわ焼はやみつき! ほかに名店がたくさん



5 高山漬物店
素材からこだわった多彩なお漬物を試食しながら選べる



4 魚松月
老舗和菓子店 福岡では「相もちならぬ」がめの葉も、お店で使っている「きなこ砂糖」



シンプルライフのススメ④

少ないもので快適に暮らす“ミニマリスト”。中道ミニマリストを自称する人気プロガー“やまさん”ことやまぐちせいこさんが、モノを減らすコツや楽しさ、そのメリットをお伝えします。

Minimalist

やまぐちせいこ

家族で家事を共有するために「使いやすさ重視」のキッチンへ



Before この状態が「私基準のキッチン」。

After 現在

片づけがあまり得意でない家族にも協力してもらうため、見える化を重視した「家族基準のキッチン」。



ラベリングを徹底。ゴミ箱は中身が見えるようにすることで、捨てる前の中身の確認作業をカット！

やまぐちせいこ 大分県在住。夫と子ども2人の4人暮らし。著書に「少ない物でスッキリ暮らす」(ワニブックス)、「シンプル思考でスッキリ身軽に暮らす」(マイナビ出版)などがある。

ブログ「少ない物でスッキリ暮らす」 <http://yamasan0521.hatenablog.com/>

野菜に魚、卵入り。

花畑めし

菜の花は塩ゆでして水気を絞り、しょうゆ洗いで絞って刻んでおきます。ごはんは隠し味の昆布茶と菜の花を混ぜ込み、焼いてほぐした銀鮭を散らします。ゆで卵の黄身をザルでこしてから散らせば、お花畑のように華やかに。



初夏が旬の絶品!

志津川産の銀鮭

銀鮭の水揚げが最盛期を迎えるのは4~7月。上質な脂が乗った銀鮭は、塩焼きはもちろん刺身も絶品。大好きです。



冷凍しておいたカレー味のコロケは、少量の油を塗ってトースターで加熱。

忙しい朝にぴったりな鶏のチリソース炒め。しょうゆとおろししょうがで下味を付けた鶏肉に片栗粉をまぶし、お皿に並べてレンジアップ。カリカリに仕上げ、レンジで加熱したチリソースとあえるだけ。

きゅうりとちくわがあれば、きゅうりを刺さずにはいられません。

初夏を感じるウキウキする気分を表した花畑弁当です。メインは、ほろ苦い菜の花

男子弁当のススメ!

ウキウキ気分の花畑弁当

初夏に向かう行楽シーズンでもあるこの時季、お弁当を作る機会が増える人も多いことでしょう。新社会人は職場や新しい環境に慣れ始める頃でしょうか。今回は、初夏を感じてウキウキする気分を表した花畑弁当です。メインは、ほろ苦い菜の花

相田幸二

1975年、山形県米沢市生まれ。現在は宮城県在住。「幸せ料理研究家」としてテレビや雑誌で活躍。『こうちゃんの簡単料理レシピ』(宝島社)シリーズは230万部を超えるダブルミリオンセラーに。ブログ「こうちゃんの簡単料理レシピ」 <http://ameblo.jp/wanwan2005/>



ベランダ菜園の楽しみ⑫

たなかやすこ

今号のテーマ

見た目もかわいく育てやすいミニパプリカ



夏 野菜って思い浮かべるのはトマト? キュウリ? それともナスでしょうか? 実は、ベランダ栽培にもっともおすすめしたいのはパプリカなんです。それもミニパプリカ。赤、黄、オレンジ、紫といろいろな色があって見た目もかわいく、株がごちんまりとしてるので、とてもベランダ向きなのです。長さ4センチほどの実は、スーパーで売っている大きなパプリカの1/3ほどのボリューム感です。

種ではなく、苗から育てます。4月中旬から5月中旬にかけて、「今年は何色を育てようかな?」と、選ぶのが楽しみなほど、さまざまな品種の苗が出回ります。

コンテナに鉢底石と培養土を入れて植えつけます。根の張りが浅いので、大き目のハンギングバスケットなどでも育てることができます。一方で、根の張りが浅いと乾燥の影響を受けやすいので、ココヤシなどで土の表面を覆うマルチングを施すか、タイムなどのハーブと一緒に寄せ植えにして、水分の蒸発を防ぐといいでしょう。

ミニパプリカは成長がゆっくり。5月後半に植えても、なかなか花がつかずやきもきするかもしれませんが、梅雨が明けて本格的に暑くなると、株がぐぐっと成長してどんどん花が咲くようになります。ピーマンの仲間では自家受粉なので、受粉を助ける必要はありません。花が咲いてから実が色づくまでは40日ほど。青臭さがないので、ピーマンが嫌いな人でもおいしく食べられると思います。スライスしてサラダの彩りに、肉詰めやマリネもおすすめです。食べ切りサイズなのも魅力ですね。



直径3センチ程度の赤いミニパプリカ。ハーブを混ぜたクリームチーズを詰めて、生のままでオーブンに。

cultivation 育ててみよう! ミニパプリカ

4月中旬から5月中旬にかけて苗が出回ります。成長はゆっくりで、収穫は7月以降。高温にも強く育てやすいですが、水切れには気をつけましょう。

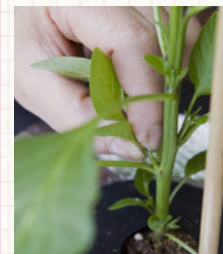
Step

1 鉢底石を敷いたコンテナに培養土を入れて、できるだけ根を崩さないようにして植えます。



Step

2 株の下のほうから枝がたくさん出てしまうと風通しが悪くなるので、最初の花より下の脇芽を摘み取ります。



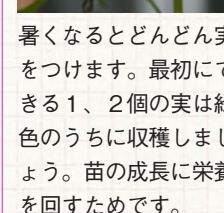
Step

3 花がついたところから枝分かれして、こんもりした株になります。



Step

4 暑くなるとどんどん実をつけます。最初に見える1、2個の実は緑色のうちに収穫しましょう。苗の成長に栄養を回すためです。



point! トウガラシの近くには植えないで

トウガラシのうち、辛みのない緑色のものを日本ではピーマンと呼び、肉厚でカラフルなものをパプリカと呼んでいるようです。もともとトウガラシの仲間なので、ミニパプリカはトウガラシと簡単に交配します。トウガラシの近くに植えると、辛い実をつけてしまうことがあるので注意しましょう。

UR都市機構からのお知らせ

NEWS

品川駅北周辺の土地区画整理事業本格着工へ。 JR東日本と共同で起工式を開催しました

品川—田町駅間に開業予定の品川新駅(仮称)に隣接するJR品川車両基地跡地の開発。その起工式が2月10日に車両基地跡地内で行われ、土地区画整理事業を担うUR都市機構と、新駅駅舎工事に着手するJR東日本が共に工事の安全を祈願しました。

羽田空港の国際化やリニア中央新幹線の整備が進むなかで、新駅を含めた品川駅周辺は、大規模な土地利用転換や広域的な交通結節点の形成を目指しています。

東京オリンピック・パラリンピック前の2020年春に予定されている新駅暫定開業に向けて、UR都市機構もまずは新駅周辺の道路を先行して整備します。土地区画整理事業は、2031年度の事業完了を目指して引き続き整備を進めます。

起工式では鍬入れをして、安全を祈願。UR都市機構は「品川駅北周辺地区土地区画整理事業」を担っています。



UR都市機構の中島正弘理事長(右)とJR東日本の冨田哲郎社長(左)。

From Editors

私が本誌を編集させていただくのは、今号で最後となりました。2011年から約2年は東北で復興支援業務、4年前から広報担当として毎号本誌で復興の今を伝えてきました。たくさんの読者から届いた「東北の復興の様子をぜひ継続して取材してください。応援しています」などの感想は、何よりの励みになりました。また、公務多忙の中、取材に応じていただいた自治体の皆さん、地元や関係者の皆さんのご協力に心から感謝いたします。あれから6年。皆さんと共に復興まちづくりに取り組んできた成果が、ハード整備だけでなく、再びコミュニティを形成するためのソフト面でもたくさん出てきたことをうれしく思っています。次号からも復興の今は継続していきます。今後ともよろしくお願いたします。

(UR都市機構 広報担当・北根岳巳)

次号のお知らせ

「UR PRESS」50号は2017年7月末発行予定です。

BOOKS

「団地」と「借り暮らし」をテーマにした 注目書籍が発売に!

この春、UR都市機構関連の書籍が2冊発売になりました。いずれも「団地」や「借りて暮らすこと」の魅力を、幅広いジャンルの著名人が多角的なアプローチで伝えています。

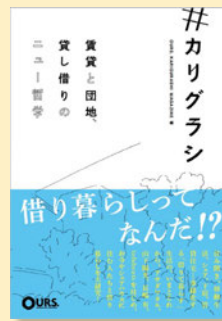
UR都市機構と東京R不動産が企画・監修した『団地のはなし ~彼女と団地の8つの物語~』では、短編小説やエッセイ、インタビュー、対談などを通して団地の魅力を紹介。

『#カリグラシ 賃貸と団地、貸し借りのニュー哲学』は、UR都市機構が手がける「借りること」「貸すこと」をテーマにしたウェブマガジン「OURS.KARIGURASHI MAGAZINE」のコンテンツを再編集して1冊にまとめたもの。ミュージシャンや写真家、イラストレーターなどが「借り暮らし」の奥深さを熱く語っています。

これからの暮らしを考えるヒントが詰まった2冊です。



1,500円(税別) 青幻舎



1,600円(税別) ぴあ

YouTubeで「UR PRESS」オンライン版の動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、ニュータウン、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を動画でお伝えしています。『UR PRESS』オンライン版でこれまでに紹介した動画や、テレビCMなどもアップしています。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



プレゼント付きクロスワードパズル

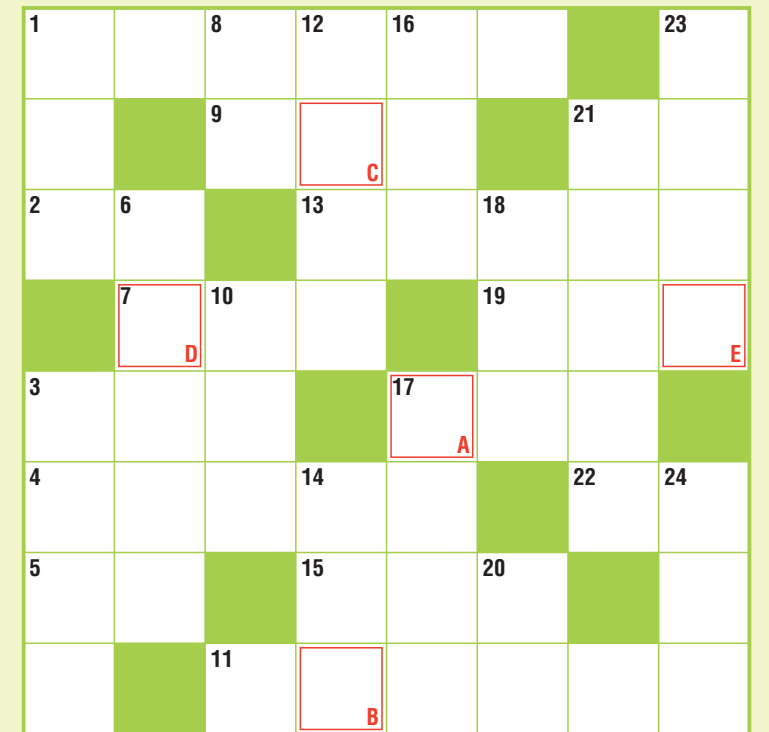
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 1 体を上下させる筋トレ
- 2 アリゲーターもクロコダイルも
- 3 ポエムを作ります
- 4 日本史や世界史、地理などを学ぶ教科
- 5 インド生まれの健康法。ホット——
- 7 チェーンともいいます
- 9 昨日してくれた話の——を早く聞かせてよ
- 11 ——に仕事ができるまで鍛えてもらった
- 13 ——一致で議案は可決された
- 15 煙をあげてする通信手段
- 17 地図上でお寺を表すマーク
- 19 売る側が——なのは売り手市場
- 21 魚偏に喜と書くと
- 22 寝ている間に見ます

タテのカギ

- 1 いれもの
- 3 店頭で——してみたら美味だったので買いました
- 6 ポテトを使う煮物。家庭料理の代表格?
- 8 卵と臼の間
- 10 ——賞は、大会に出た人全員がもらえますよ
- 12 なすすべがなくなっちゃった状態
- 14 生き物はみな持っています
- 16 すぐそば
- 17 穴あきのおなじみのパスタ。——グラタン
- 18 背の—— 五十音—— ——ぐり
- 20 「旧」の反対
- 21 プロフェッサーとも呼ばれます
- 23 価格を下げました
- 24 ——の人には敬語を使わなきゃ



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1 石巻 浜ごはん 3名様

石巻産の大粒牡蠣入りの炊き込みごはんの素。ササニシキの白米2合付き。香り豊かなかつおだしにコショウがピリリと効いています。



PRESENT 3 浦霞「蔵の華」 3名様

塩竈市の老舗蔵元・佐浦が醸造する日本酒「浦霞」。宮城県内限定の純米吟醸酒「蔵の華」は、ふくよかでコクのある銘酒。



*お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

PRESENT 2 「南三陸発!」 志津川小学校避難所」 10名様

1,000人以上が避難生活を送った南三陸町志津川小学校での59日間のドキュメンタリー。今後の災害予防・支援に役立つ貴重な記録。



PRESENT 4 「団地のはなし ~彼女と団地の8つの物語~」 10名様

本誌40ページでも紹介している、団地の魅力満載の本。女優・モデルの菊池亜希子さんへのインタビューや、写真家・映像作家の茂木綾子さんのフォトエッセイなども掲載されています。



PRESENT 5 「#カリグラシ 賃貸と団地、貸し借りのニュー哲学」 10名様

作家の長嶋有さんや藤野可織さんをはじめ、幅広いジャンルの著名人の「借り暮らし」への思いが詰まった本。本誌40ページでも紹介しています。



48号の解答

A ホ B タ C ル D マ E チ



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2017年7月30日(当日消印有効)
当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。